

令和2年度 前期学校評価集計結果について

中央市立田富中学校
校長 山本 成利

はじめに

本校の保護者、生徒、教職員に対して令和2年7月にアンケートを実施しました。アンケートの結果を考察し、自己評価を行いました。これを後期の学校経営に活かしていきたいと思っております。

1 アンケート項目について

アンケート項目は今年度見直しを行い、より学校教育目標や学校経営方針が反映されるようにしました。また、年2回実施とし、年度内に取り組むべき内容については年度内に対応していきたいと考えています。

2 評価について

「令和2年度 教職員・生徒・保護者の学校評価平均点」「学校評価計画」と昨年度との比較をしました。

(1) 評価平均点から考える「努力したい項目」「改善が必要な項目」

- * 評価は4段階で実施し、平均値を2.5と考えました。
また、評価平均点の数値を次のように判断しました。
 - 3.0以上「概ね良好」
 - 2.5以上3.0未満「努力したい項目」
 - 2.5未満「改善が必要な項目」

(2) 前年度との比較

- * 前年度の質問内容と同じようなものについては変化を見ました。

(3) 肯定率から

- * 評価を4(そう思う)と3(ややそう思う)と、肯定的評価をしている割合を肯定率として算出してみました。90%以上を、取り組みの成果が出ている項目、70%以下を、本校の課題として改善が必要な項目として判断しました。
 - 90%以上を三者(保護者・生徒・教職員)が評価している項目は、7項目ありました。
 - ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
 - ・学校は、時間・あいさつ・言葉づかい等のルールやマナーの大切さ、よりよい生活習慣を指導している
 - ・生徒からの相談に適切に応じてくれる
 - ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てている
 - ・行事や生徒会活動、部活動を通じて、心身ともに成長している
 - ・生徒の健康管理や安全に配慮している
 - ・学校・学年・学級だよりなど、様々な便りの発行を充実させている
 - 70%以下の評価となっている項目は三者(保護者・生徒・教職員)のなかにはありませんでした。個々にみていくと、肯定率が80%以下の項目は以下の2項目になります。
 - ・77.3%(保護者) 学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う
 - ・79.9%(生徒) 私は、授業や家庭学習において前向きに学習活動をしている
 - 生徒の評価項目で最も肯定率が低かった項目は、以下になります。
 - ・79.9%(生徒) 私は、授業や家庭学習において前向きに学習活動をしている

3 三分類(「概ね良好」「努力したい」「改善が必要」)した評価について

(1) 総括

三者の総合平均点は、生徒の評価が最も高く、総合平均が3.40でした。(昨年度より+0.03) 教員の評価は3.21、保護者の評価がやや低く、総合平均で3.18でしたが、昨年度の保護者総合平均より0.04ポイント向上しました。質問項目を今年度変更したところがあるので、すべてを比較することはできませんが、項目ごとに見ると、昨年度と比較して上がっている項目が多く見られました。『生徒は前向きに授業に取り組んでいると思う』『先生方は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じている』『生徒は互いに協力し、行事や生徒会・委員会・学級活動を活発に進めていると思う』

『相手の良いところを見て、仲間やお年寄り思いやりの心を持つように努力していると思う』の4項目は、前年度と比較して大きく向上しました。一方、前年度と比較して、下がった項目は2項目です。『生徒は前向きに授業に取り組んでいると思う』『自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』でした。

平均値が低かった項目をみると、生徒・保護者ともに『授業や家庭学習において前向きに学習に取り組んでいる』が低く、生徒の質問のなかでは最も平均値が低く、提出物についても低いという結果でした。また、生徒の質問のなかでは、『私は、自分の将来や進路について考えることがある』も低く、保護者も学年に応じたキャリア教育についての項目が最も低くなっていました。『授業では自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』については、生徒、保護者とも低く、教職員の結果とは大きな開きがありました。

(2) 「概ね良好」(3.0以上)の評価について

* 以下の9項目については、保護者、生徒、教職員のとも3.0以上に評価しました。

- ・ 1 生徒は学校に楽しく通っている
- ・ 2 生徒は前向きに授業に取り組んでいる
- ・ 3 学校は、時間・あいさつ・言葉づかい等のルールやマナーの大切さ、よりよい生活習慣を指導している
- ・ 4 先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じてくれる
- ・ 5 道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てようとしている
- ・ 7 行事や生徒会活動、部活動を通して一人ひとりの生徒のよさを発揮させ、体を動かすことの楽しさや体力づくりの大切さを指導している
- ・ 12 生徒の健康管理や安全に配慮している
- ・ 13 学校行事や生徒会活動、部活動は生徒にとって充実した活動になっている
- ・ 14 学校・学年だよりや保健・図書だよりなどの発行を充実させ、PTAの会合でも、学校の取組を知らせている

(3) 「努力したい」(2.5以上3.0未満)の評価について

三者がそろって2.5以上3.0未満の評価をした項目は、今年度はありませんでした。しかし、前述したように保護者の方から『自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』授業の実施については肯定率が低かったので、感染症対策の影響も考えながら、今後も「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業改善に向けての校内研究をより一層充実させていきたいと考えています。さらに「授業と家庭学習の有機的な結びつき」「学びの大切さ」などを切り口に、生徒とともに「家庭学習の習慣化」「学力向上」について取り組んでいきたいと思ひます。

(4) 「改善が必要」(2.5未満)

今回のアンケート調査の結果で平均値以下の2.5未満の項目は、1つもありませんでした。

4 成果と課題について

(1) 【成果】今年度取り組んだ事への評価と考察

今年度、重点課題として、①「学びに向かう力、人間性等の涵養。言語活動の確実な育成を図るとともに、学力の向上を図る」②「基本的な生活習慣の確立とともに、いじめ・虐待の早期発見、および、不登校の解消の推進」③「自ら運動を実践する態度を育成し、体力向上を図る」④「開かれた学校づくりを推進し、保護者・地域に根ざした教育活動を展開する」の4点を設定しました。

①については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループ活動等の制限が多く、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善や「言語活動の充実」などになかなか取り組むことができなかったのですが、感染症対策を行いながら少しずつ目標達成のために努力を続けています。また、校内研究に全職員が積極的に取り組み、「学力向上」や「家庭学習」の項目を改善すべく取り組んできました。講師を招聘し、授業と家庭学習を有機的に結びついていくことを学び、「家庭学習スタンバイ」の取組を開始しました。授業改善とあわせ、これからも学力向上を図っていききたいと思ひます。また、生徒一人ひとりが10年後、20年後の自分を意識し、「公社会で通用する人間」に成長していくようにするという目標を、全教職員で年度当初確認を行いました。これからもキャリア教育を意識し、総合的な学習等を進めていききたいと思ひます。

②については道徳教育推進のために、各学年の実態から価値項目をそれぞれ選び、学校全体として大切にしていける価値項目と合わせ、今年度は授業に取り組んでいます。また、生徒理解のためにi-checkや生活アンケートを行い、「学級づくり」の研修会を教職員対象に実施するなど、生徒同士、生徒と教師の信頼関係を大切に考え、教育活動を行ってきました。さらに、豊かな心やしなやかな心の育成のために、11月には講師を招聘し、教職員が子どもたちと一緒に学んでいく機会をつくっていききたいと考えています。

③については、感染症対策等を生徒と一緒に考え、自他の生命を守る態度の育成を日々行ってきました。ま

た、感染症のために多くの行事や部活動の大会が中止になっています。感染症対策等を行いながら学校教育目標達成のために必要な行事については、これからも工夫をしながら、実施について検討をしていきたいと思えます。

④については、今年度も毎月第一月曜日に保護司・更生保護女性会の皆様・生徒会・教職員が協力して、あいさつ運動に取り組んでいます。「あいさつ」は子どもたちが将来社会に出てからもとても大切なものです。今後様々な機会を通じて、十分な定着をめざしていきたいと思えます。ご家庭からの支援をいただけますと幸いです。保護司・更生保護女性会・保護者・生徒会役員による「あいさつ運動」は非常に効果的だと思いますので継続するとともに、「あいさつの意義」を生徒たちに考えさせる機会をこれからも設けていきたいと考えています。また感染症の関係でこれまでは実施できなかった地域の方々を招いての「保護司に学ぶ会」、音楽科の授業において2名の講師を招いての「伝統音楽（琴）の授業」、「職業講話」等を実施していきたいと考えています。また、授業参観もこれまで実施することができませんでしたが、後期には実施を考えています。さらに、今年度はHPを充実させ、臨時休校中の学習についての時間割や各種情報について定期的に更新するなど情報発信に努めてきました。学校だより等各種便り等も積極的に公開しています。これからも学校が積極的に情報を発信し、学習面や生活面等を含め、一人ひとりの生徒の成長のために、家庭との連携協働体制を推進していきたいと思えます。

（2）今後の取り組みについて

今年度の取り組みを引き続き、充実させていきたいと思えます。「学力向上・家庭学習の習慣化」「学級集団づくり」「キャリア教育」の3点を後期の重点課題としたいと思えます。

①『学力向上・家庭学習の習慣化』

学力向上は学校教育の根幹であり、本校においても喫緊の課題であると考えます。校内研究のテーマとして掲げ、全職員一丸となり、生徒・保護者とともに取組をしていきたいと考えています。

<具体的な取組>

- ・「授業のめあてを示し、振り返ること」「授業と家庭学習を有機的に結びつけること」「言語活動（自分の考えについて根拠を示して書くこと・話し合い活動で考えを広げること等）を効果的に取り入れる」など、授業改善を高い次元で実施していきます
- ・生徒が達成感や成就感を持てる授業を工夫する
- ・生徒に一人一人に気を配り、個に応じた学習指導を進める
- ・言語活動を効果的に取り入れる
- ・家庭学習の手引きの活用
- ・スクールライフの活用
- ・家庭学習スタンバイの取り組み
- ・「学びの甲斐善八か条」（県教委）を活用した取り組みの実施
- ・家庭生活（スマホ・TV・ゲーム・携帯電話利用等）について生徒とともに考える機会を設定する。保護者にも協力をお願いする

【担当】 研究主任，学年研究担当

校内研究を通して、生徒が自ら問いを発し、協働により、課題を解決していく「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行い、達成感や充実感の持てる授業実践を目指し研究を進める。また、授業と有機的に家庭学習を結び、自分から課題を見つけられ、学習を学ぶ姿勢を育成したいと考えています。

②『学級集団づくり・学級経営の充実』

教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係がすべての教育活動の土台となることを考え、学級集団づくり・学級経営の充実に取り組んでいきたいと考えています。校内研究に設定し、これまで教職員対象の学習会などを行ってきました。生徒一人ひとりに自己肯定感や自己有用感を持たせる取組をこれからも工夫し、一人ひとりのよさや可能性を生かすように努めていきたいと考えています。

- ・各種検査の分析
- ・各学級での自己肯定感・自己有用感を高める取組
- ・学校行事や部活動などを活用した活躍できる場面の設定
- ・学級づくりの研修会「菊池省三先生を招いての研修会」の実施
- ・道徳教育の推進

【担当】 研究主任，学年研究担当

③『キャリア教育の推進』

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育課程を変更せざるを得ない状況があり、総合的な学習の時間等を使って計画していた講師を招いての学習等、キャリア教育を計画通り実施できませんでした。生徒・保護者のアンケートからもそれがよくわかります。後期は、キャリア教育や自分の将来について考えていく学習の機会を増やしていく工夫をしていきたいと思っております。

- ・親子進路学習会の実施（3年生）
- ・各学年の総合的な学習時間や学活を活用したキャリア教育の実施
- ・講師を招聘しての職業講話

5 その他

(1) 三者からの回答数

・生徒	402名	回収数	383名	(回収率	95%)	理由：欠席・無回答
・保護者	402名	回収数	326名	(回答率	81%)	
・教職員	38名	回答数	38名	(回答率	100%)	

(2) ご意見ご要望について

長い臨時休校等があり、教育課程等も変更を行う中でこれまで学校運営をしてきました。保護者の皆様方におかれましては、感染症対策や熱中症対策等にご協力いただきながら、本校の教育活動にご理解とご支援をありがとうございます。

本年度も多くのご意見ご要望をいただきました。様々な考えがあることを十分に理解することができました。「学力向上」や「生徒指導」への期待を読み取ることができましたので、改善できるところは2学期のスタートにあたり、全職員で改善点を確認し、教育活動にあたっていきます。お寄せいただいた要望事項の対応については後期の学校運営の中で取り組んでいきたいと思っております。

これからも「中央市の教育の基本『まごころ』」「校訓『誠実』」「学校教育目標『豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』」を基本に教育活動を推進していきますが、保護者の皆様のご意見を学校教育に活かすことは非常に大切なことと考えています。今後ともご理解とご協力、ご支援をお願いいたします。

6 第二回学校運営協議会より

○学校評価の年2回実施について

【意見】年間2回行うことは忙しい中だと思うが前向きな実施でとても良いと思う。従来の年1度で振り返りを行っても、課題を解決するには、次年度になってしまい、職員も変わってしまう。前期後期で2回評価をすることで、課題に向けて、年度内にPDCAサイクルを実践することができる。

○家庭学習の新しい取組について

【意見】家庭学習の取り組みにおいて「家庭学習スタンバイ」の取組はとても良いと思う。6月からスタートして、教育課程をこなすのに、精一杯な状況の中、家庭学習の充実や、授業においても主体的・対話的で深い学びを意識した授業を実践し、意識している結果が、今回の生徒や保護者の評価に出ていると思う。授業と家庭学習とを有機的に結びつけてほしいと思うので、家庭学習スタンバイの取り組みはとてもよいと思う。成果につながることを期待している。

○菊池先生をお招きしての公開授業について

【意見】全国的にもたいへん有名な先生を招いての研究会の実施はとても素晴らしい。先生方が行う道徳の授業において、大幅なスキルアップやご指導・ご示唆をいただけたと思う。学校教育目標の実現のためにも先生方には、ぜひ引き続き勉強をしていただきたい。

○新型コロナウイルスへの対応について

【意見】中央市教育委員会でも休校から再開に向けての予算措置等、集団生活を行う上で、必要になることなどを検討してきたが、まだまだ完全ではないところがある。市教委としても学校側の要望について、積極的に協力できるところは協力していきたい。

○コミュニティスクールの未来について

【意見】コミュニティスクールを実現していくために、この会全体で、田富中の課題について解決策を考えていくことが必要なのではないか。例えば、主任児童委員の立場の者は、毎月の民生委員の定例会に参加し、田富中の現状についての話をし、田富中のことを知ってもらうことで、地域の理解を得ることができると思う。こういう取組が、地域で子どもたちを育てる意識が生まれるのではないかと

と考える。発足1年目でもあるので、これからも学校側と共に、一緒に考えていき、よい方向へと進むように互いに尽力していきたい。

○市への要望事項について

【意見】市の要望事項について、グラウンドやテニスコートの整備が毎年挙げられているが、なかなか改善しない現状がある。社会教育等地域を巻き込んで要望していく方がよいと思う。また、市教委でも必要な場所に必要な予算がつくように引き続き努力していきたいと考えている。

これまで敷地内でのたばこの吸い殻や割れた瓶の散乱など、部外者による心ない行動が非常に多く見受けられた。そこで、市では、子どもたちの学校生活を守るために、防犯カメラを設置していくことになった。このように、市教委では、学校や保護者、地域の声に寄り添いながら、これからも学校を支えていきたいと考えている。